

# 日本海西部におけるズワイガニのブランド名



○上田祐司(日水研)・白石宏己(石川水総セ)・河野展久(福井水試)・戸嶋孝(京都海セ)・大谷徹也(兵庫農水技総セ)・志村健(鳥取水試)・道根淳(島根水技セ)

ズワイガニは水産物の中でも非常に高価であり、地域ブランド名の種類が最も多い魚種の一つである。ここでは、日本海西部におけるズワイガニのブランド名について整理した。

府県名	ブランド名	いつごろから	タグの色	関連情報
石川	加能ガニ	2006年	青	石川県漁協が発足（2006年9月1日）したことを機に、公募により決定されたブランド名。加賀の「加」と能登の「能」を組み合わせたもので、2006年11月1日に決定し、2006年漁期から使われている。
石川	(香箱ガニ)			雌ガニに対して古くから使われている名称で、由来も諸説ある。特に金沢港支所と金沢支所に所属する底びき船が金沢港に水揚げした香箱ガニについて金沢海産物ブランド化推進協議会が2010年4月に「かないわ香箱」として商標登録した。
福井	越前がに	1916年ころ	黄	江戸時代から越前の国でズワイガニが獲れていた記録はあるが、「越前ガニ」の呼称が広く知られるようになったのは、大正時代になってから。皇室への献上は、1909年（明治42年）、「福井県の魚」に指定されたのは1989年（平成元年）から。平成19年に「越前がに」として地域団体商標に登録された。雌ガニにもタグが付けられている。
京都	間人ガニ	1998年ころ	緑	ブランド化の取り組みは平成に入って行われていたが、本格化されたのはタグを付け始めた平成10年ころ。平成18年に地域団体商標登録を取得してからはテレビでも取り上げられ、知名度がアップした。
京都	舞鶴かに	2008年ころ	緑	平成20年頃から舞鶴市や観光協会が盛んにPRを始め、平成24年に地域団体商標登録を取得した。舞鶴「かに」であり、「がに」「ガニ」「カニ」ではない。
兵庫	柴山ガニ	2004年ころ	桃	平成16年ころからタグを付け始め、そのころが契機。柴山・香住では立てが二の最上級クラスを番ガニ（銘柄「1番」～「7番」の総称）と呼ぶが、柴山ではその中でも体重1.4kg以上のものを「柴山ゴールド」と称して金色のタグを付け、平成23年漁期より超高級ブランドとして扱っている。
兵庫	津居山かに	2001年	青	平成13年漁期からタグを付け始めている。平成23、24年漁期は通常のタグに加え、一部の個体に豊岡市のタグも付けた。
兵庫	浜坂ガニ	2010年ころ	青	2～3年前から観光協会が謳い始めたが、漁協としては今のところ「浜坂産松葉ガニ」で売っている状況
兵庫	(香住ガニ)		白	ベニズワイで唯一ブランド名が付いている。
鳥取	松葉ガニ	1845年ころ	白	弘化2年（1845年）に書かれた鳥取藩の「町目付日記」の11月13日の項で、若桜町御用座敷建て替えの際、棟上げ祝宴に出された献立のメニューに「松葉がに」が含まれていた（その後、天明2年（1782年）鳥取藩の公文書控えに12月5日に津山藩への贈答品目録と思われる記載が発見されている）。タグには「とっとり松葉ガニ」の表記。
鳥取	(若松葉)	2001年3月		2001年3月よりミズガニを若松葉と呼ぶようになり、2002年漁期から実際に若松葉として売られるようになった。
島根	松葉ガニ		青	隠岐諸島のかご漁業で水揚げされた雄について、「隠岐松葉ガニ」としてタグを付けて売っている。